

工業会活動

IAQGブリュッセル会議について

1. はじめに

IAQG (International Aerospace Quality Group) ブリュッセル会議が、2024年4月12日(金)～18日(木)に開催された。IAQG会議は、年2回(春、秋)開催を計画されており、2023年秋会議は10月にサンフランシスコにて

開催され、春会議は昨年に引き続きブリュッセルにて開催された。

JAQG (Japanese Aerospace Quality Group) から、数多くのメンバーが対面で会議に参加した。以下に今回の会議の概要について報告する。



会議会場 (<https://www.bluepoint.be/en/brussels>)



受付の様子

2. IAQGの概要および会議概要

国際航空宇宙品質グループ (IAQG) は、世界の航空宇宙及び防衛関連企業が互いの信頼に基づいて強力な協力体制を構築・維持することにより、価値創造の流れの全段階において品質の著しい改善とコストの削減を実現する活動を推進するために1998年に設立した

組織であり、アメリカ地区のAAQG、アジア太平洋地区のAPAQG、ヨーロッパ地区のEAQGにより構成される。JAQGはAPAQGおよびIAQGの主たるメンバーであり、日本の航空宇宙産業界の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルール等に反映させるべく活動を行っている。



IAQG組織 (<https://jaqg.sjac.or.jp/about/index.html>)

IAQGの主な活動目的は次の3点である。

- ・ 航空宇宙業界独自規格（9100シリーズ規格）の制定及び維持
- ・ 品質改善のためのガイダンス資料の提供
- ・ 9100シリーズ認証制度の開発及び維持

会議は、IAQG総会及びそれに先立って開催される執行委員会（Executive Committee）、Operation Council並びに各種分科会をもって構成され、中長期戦略の検討及び作業進捗状況の確認・調整等が行われる。これらについては後述する。

JAQGは、ほぼ全ての会議へ積極的に参画しており、我が国の意見、特にSingle-SDO（Standards Development Organizations）実行状況の確認、9100シリーズAQMS（Aerospace Quality Management System）規格の厳格適用（9100（製造）、9110（整備）、9120（販売業者）それぞれの組織の業態に合わせた適用）に向けたIAQGとしての統一解釈の確認を行うとともに、APAQGの主メンバーとして3月に開催したAPAQGバンコク会議で取りまとめたAPAQGの意見をIAQGに提案及び反映する作業を行った。

（1）総会（General Assembly）

総会では、執行委員会（Executive Committee）報告、各セクター（AAQG、EAQG、APAQG）からの報告、会計報告、各分科会活動の進捗報告が行われた。

APAQGからの報告では、新たにセクターリーダーとなった川崎重工業㈱の上原氏より、メンバーシップの変更（Honeywell Chinaの参加）、リーダーシップの交代（三菱重工業㈱渡辺氏から上原氏への交代）、スペースフォーラムの取り組みなどについて紹介された。

総会の決議事項は下記の4件であり、すべて承認された。

1. 2023年10月にサンフランシスコで開催された総会の議事録の承認
2. Executive Committeeメンバーの交代の承認
3. 2023年IAQG決算の承認
4. 2024年IAQG予算の承認

これらの承認は投票メンバーにより行われたが、27名の投票メンバーは、AAQGの10名、EAQGの10名、APAQGの7名から構成されており、APAQG投票メンバーのうち、4名がJAQG（Japanese Aerospace Quality Group）から選出されている。



総会の様子



投票メンバー



@2024 IAQG

IAQG会長 Eric Jefferies氏



@2024 IAQG

APAQGセクターリーダー 上原氏 (KHI)

(2) 執行委員会 (Executive Committee)

執行委員会は、IAQG会長、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー等から構成され、IAQGの組織運営に関連する重要事項を討議する委員会（月例）である。

今回は、①規格発行手順変更試行結果にもとづく翻訳プロセスの変更提案説明、②関係強化戦略分科会相互の協力関係強化提案説明、③航空宇宙品質マネジメントシステム認

証制度管理におけるデータベース OASIS V3 (Online Aerospace Supplier Information System Version-3 : IAQGが開発したWebベースのデータベースシステムであり、全世界の9100、9110、9120認証取得組織の情報が登録されている)の運用状況報告、④9100規格改訂作業状況確認、⑤2023年決算及び2024年予算修正案の確認と総会提案資料確認、について議論した。



Executive Committeeのメンバー

(3) IAQG Operation Council

IAQG Operation Council は、IAQG会長、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー、各分科会リーダー及びIAQG投票メンバーの参画により運営され、各分科会の活動方針の検討・設定等が行われる。今回は、以下の点について各リーダーから説明があり議論を実施した。内容の主な項目については本資 (1) のGeneral Assemblyでも報告された。

- ・ 9100規格の改訂について
- ・ AQMSの新しい規格の制定について
- ・ OASIS登録料の料金改定について
- ・ IAQG活動のヒューマンリソースについて
- ・ OASISの機能の追加について

- ・ Relationshipについて
- ・ Defense/Spaceについて
- ・ Finance（財務）の状況について
- ・ オンラインでのIAQGグッズ販売等、Early Career活動の紹介

(4) IAQG規格検討ワーキンググループ

本分科会では、9100規格（日本ではJIS Q 9100として発行）をはじめとする9100シリーズ規格（9100《製造》規格とそれを基に作成されている9110《整備組織》、9120《販売業者》及び9115《納入ソフトウェア》規格）を含む品質要求事項の規格が規定する内容を議論し決定している。今回の会議では、会議メ

ンバー構成・登録状況、IAQG規格の提案から発行までの流れ、関連作業の支援ツール紹介等が行われた他、9100規格等の現在IAQG

で新規開発・改正中の規格についての作業状況報告及び協議が実施された。



IAQGが発行する規格

IAQGからはAPAQGにおける規格関連活動として、3月にバンコクで開催されたAPAQG会議の評議会で、新たなIAQG規格発行プロセスの概要、規格開発・改正状況等が紹介されたことが報告された。

IAQG規格検討ワーキンググループでは、従来のスキームでIAQGでの作業が完了した規格に対応する国内規格の新規制定・改正作業を進めると共に、新スキームでIAQG規格日本語翻訳版が適切かつ適正に発行されるよう、IAQGでの準備活動に引き続き参画し支援する予定である。

主な規格関連作業の分科会活動状況を以下に紹介する。

a 9100規格「航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項」

2023年11月から12月にかけて、IA9100規格の調整ドラフトに対するコメント募集がSAEのStandard Works上で展開され、世界中から389件のコメントが集まった。それらのコメントに対する処置方針を3セクター（AAQG、EAQG、APAQG）の9100チームメンバーによ

り、セクターミーティング（APAQGの場合は2024年3月のバンコク会議）等で事前に協議／検討し、その結果を持ち寄り、今回のブリュッセル会議では、IAQG 9100チームメンバーで最終的な処置方針を協議した。

新規要求事項である、情報セキュリティ（information security）の要求事項の書き方、品質文化（quality Culture）ではなく、組織文化（organizational culture）への変更、製品安全（product safety）の要求事項／注記の使い分け、クリティカルアイテムとキー特性の関係性の明確化等に議論を費やした。

今回、IAQG9100チームメンバー内で合意した内容をIA9100規格に反映し、2024年6月頃に-1 Standards CommitteeでIA9100規格に対する投票が実施される予定である。IA9100規格発行は、ISO9001：2025の改正内容を反映後、2026年を予定している。

b 9110規格「航空分野の整備組織に対する要求事項」

IAQGからは2名が参加。今回は諸事情（他の国際会議、紛争等）により7名の少数精鋭で、

9110改正案への約400件のコメントを1件ずつ検討・反映した。特記事項としては、9100シリーズ全体で、適用範囲の記述が規格毎のみの記述に戻ったことに伴い、9110ではMROを主要業務（business）との表現から主要活動（activity）と明確化したことである。また、SMS（Safety Management System）対応項目が9100シリーズ全体で増える中、MRO用規格の9110では元々Product Safetyの条項が充実しており、改めてその中でも重要な、報告の仕組

み（Reporting System）を、備考ではなく本文条項に入れる改正案とした。

MRO全体についても今後の方向性が話し合われ、欧米の規制当局から軍用整備で9110要求事項を取り込んだり、一緒に検討していく動きと連動して規格の充実をしていくことを確認した。日本でも防衛省品質共通仕様書改正検討の中で9110が含まれたことを報告し、世界の全地域で同じ動きとなっていることを確認し合った。



9110チーム集合写真（日本からは、佐藤常務理事（SJAC）、山本氏（IHI）が出席）

・SCMH (Supply Chain Management Handbook)
SMS Project

2月から新たに立ち上がったSCMH作成チームより、9110チームへ数名参加者を出すよう依頼があり、これに日本から9110チームに参加している2名（SJAC 佐藤常務理事、IHI 山本氏）も参加しており、ブリュッセル会議で方針を協議した。2024年末までに中小企業へSMSを広めるためのガイドラインを発行するというアグレッシブな目標が決まった。これ

はFAAが2025年にMRO以外の設計・製造の分野の組織にSMSの実行を求めていることに対応するためである。

世界の3セクターから全20名弱が危機感を持って集まり、IAQG 9100シリーズ規格リーダーも本SCMHチームに参加しているなど、業界あげての課題に取り組んでいる。3つのサブチームのうち、日本から参加の2名はガイドライン導入部担当となり活動していくことになった。

(5) 関係強化戦略分科会 (国際スペースフォーラム：International Space Forum)

スペースフォーラムは、9100シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーへの啓発を主たる目的として活動を行っており、JAQG スペースフォーラムは、APAQGの代表として出席している。

本会議では、宇宙関連企業に加え、主要ステークホルダーである宇宙機関（NASA、ESA、JAXA）等が参加しており、ステークホルダーとの綿密な情報交換の場として、AAQG、EAQG、APAQG各セクターの活動報告や、国際スペースフォーラムとしての2026年までの活動方針等、今後の宇宙製品及びサービス保証やスキームに対する提案等の議

論が活発に行われた。

アジア太平洋のセクター活動として、APAQGスペースフォーラム内の環境分析並びに活動計画、ステークホルダーを含めた各国の活動状況共有、SCMH7.17章「宇宙分野への適用」の次期改版に向けた意見交換等が実施されたことに加え、更なる関係強化のためのプロモーション活動として、APRSAF-30（30th Asia-Pacific Regional Space Agency Forum：オーストラリアにて11月開催）に向けた計画を報告した。

今後もAPAQGの代表として、セクター内の宇宙業界への啓発を図るとともに活性化を推進し、当該活動をIAQGへ反映出来るよう積極的に参画していく。



国際SF会議の様子



(日本から、立岡氏／栗屋氏（NEC）、松根氏（MHI）、松井氏（IA）、武内氏（MELCO）、葛西氏（JAXA）が出席）

(6) 認証オーバーサイトチーム (Certificate Oversight Team : COT)

COTは、航空・宇宙・防衛分野の品質マネジメントシステム認証制度の運用に必要な規格（要求事項）の制定・維持、および認証制度の世界的な運用・管理等を行っている。今回の会議では、EAQG・AAQG・APAQGの3セクターから業界（主要製造メーカー）、認定機関、認証機関それぞれの代表者の参加のもと、認証制度の運用に必要な9104シリーズ規格（3規格）および9101規格の改正バロット（IAQGメンバー企業による投票）の進捗状況の確認、認証に関するデータベースの新バージョン（OASIS V3）の開発状況に関する確認・調整、9104シリーズ／9101規格による移行（再開）に向けたスケジュールの確認・調整、3セクターにおける業界オーバーサイト活動の実施状況およびそのパフォーマンスレビューの結果確認、現在発行検討中のレゾリュション（規格を補足する特定事項に関する要求事項）の確認・調整、などが行われた。

(7) 製品およびサプライチェーン改善分科会 (Product and Supply Chain Improvement)

本分科会は、製品やサプライチェーン改善のための活動支援を目的とした活動を行っている。その一つがSCMHの作成・維持であり、サプライヤが顧客の期待や組織目標を満たすための取組みについて、その具体的な方法や優良事例を文書にまとめ提供している。

これまでに発行した文書は200点以上にのぼり、現在も精力的にSCMHの開発を続けている。新規SCMHの開発は、各社の困りごとや要望等を踏まえて分科会メンバーで審議して採否を決定しているが、より多くの声を反映できるよう、昨年より分科会メンバーを増員し、新体制での活動を開始した。

ブリュッセル会議ではこれまでに寄せられ

ているSCMH開発要望をリスト化し、開発ニーズの高さ、規格適合への貢献度、革新性などの評価項目を決めてポイント投票を行い、開発優先順位の決定を行った。今後も引き続き、SCMHの充実化とユーザー支援を継続していく。

(8) パフォーマンス評価分科会 (Performance Team)

本分科会では、IAQGが実施している諸活動の成果を評価し、改善のための情報を提供することを目的として活動を行っている。その一環として、IAQG全体のKPI（Key Performance Indicator）を定めて達成状況等をHPで公開する計画について議論が行われた。

今後は、各組織の納期どおりの引き渡しや不適合流出率等といった品質指標がOASIS V3に蓄積される予定であることから、これらを業界として平均化するなどの処置を行った上でKPIとして公開し、また9100等の認証組織数についてもリアルタイムで把握できるようにする方針が決定された。

また、今年度から開始することとなった、IAQG規格の一般利用者を対象としたアンケートの内容について議論が行われた。IAQG規格の利用者から規格改訂・発行やSCMHの提供等各種活動に対する意見を収集することで、活動の成果を評価する試みである。本アンケートは6月に展開し、10月のIAQG東京大会で結果を報告する計画となった。



Performance Team会議



Performance Team (左奥 池崎氏 (IHI))

(9) コミュニケーション (Communication Team)

コミュニケーションチームはIAQGホームページ、PodcastやLinked Inなどのコミュニケーションツールを用いて、IAQGの活動を広く浸透させることを目的として活動を行っている。今回の会議では主に“IAQG Tag Line Contest”の選考について調整を行った。

“IAQG Tag Line Contest”とは、3単語程度の短いフレーズで組織の性格を象徴的に表現しようとするもので、例えばインターネット流通大手のAmazonであれば“From A to Z”、

靴業界のNikeであれば“Just do it”などのようなものである。IAQGおよび各セクターのメンバーから3月～4月にかけて158件の応募があった。

会議ではメンバーでIAQGを体現する単語は何かを出し合い、その中からいくつか代表的なものを抽出し、共有して、次回ミーティングまでに各自で選考することとされた。

近日中に選定されたIAQGのTag Lineがお披露目になると思うので、楽しみにお待ち頂きたい。



コミュニケーションチーム会議

4. おわりに

今回の会議では、IAQGでの規格発行手順の改訂、規格の改訂作業状況、SCMHの開発及び関係強化戦略分科会の活動状況などにつ

いて、対面ならではの活発な議論が行われた。

また、会期中には会員間の親睦を深めるためのパーティーも開催された。



ディナーパーティー



表彰の様子

和やかな雰囲気の中、IAQG活動に貢献された方々を表彰する席で、日本からは下記の方々が表彰されたことを報告する。

5年表彰

- ・ 栗屋 崇氏（日本電気株式会社）
- ・ 澤中 裕子氏（川崎重工業株式会社）

10年表彰

- ・ 朝倉 孝明氏（株式会社IHI）
- ・ 服部 明子氏（APAQG）
- ・ 首藤 博氏（三菱重工業株式会社）

IAQG活動に大きな変革を迎えようとしている現状を踏まえ、日本国内における関係部署（省庁及び団体並びに会員企業）とのよりきめ細やかな連携を図るとともに、引き続き積極的にIAQG活動に関与して行く所存である。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕